

なぜ、 **地震対策**が必要なのか

生活の継続・早期再開のために

監修：筑波大学名誉教授 梶 秀樹



考えていますか？ 地震後の生活



家族の死傷と生活の再建			
死傷の程度		再建可能性	
死者が出た	→	×	再建不能
けが人が出た	→	▲	重病のため大幅な遅延
軽傷	→	○	若干の遅延
無傷	→	◎	直後から再建可能



筑波大学名誉教授
梶 秀樹 先生

20分 / DVD 60,000円 (本体価格)

なぜ、地震対策が必要なのか

生活の継続・
早期再開のために

大震災から数年が経ち、防災意識が薄れ始めた家族が、地震対策に取り組むまでの様子をドラマ形式で説明していきます。

「どうすれば生活を継続できるか?」「いかに早く普段の生活を取り戻すか?」という観点から、専門家の解説を交え、地震対策の必要性を訴えます。

〈あらすじ〉

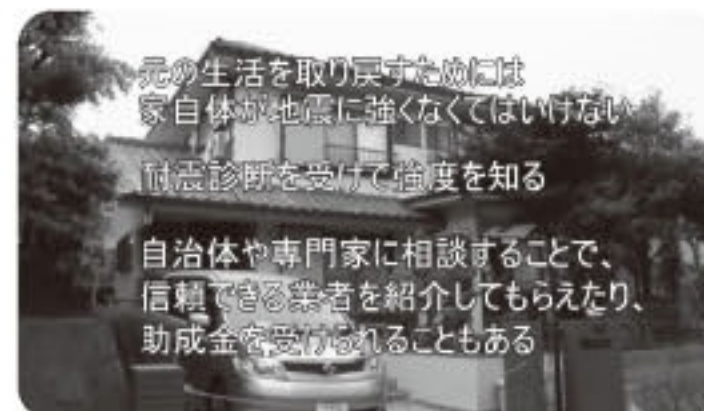
久しぶりに兄（山川春雄）の家を訪ねた秋夫。地震対策を何もしていないことに気づき、自身の被災した体験を元に「生き残る人の方が多いこと」「生き残ってからの生活が大変なこと」「だからこそ生活の継続・早期復旧のための備えが必要なこと」を話します。秋夫の話に徐々に耳を傾ける春雄。山川家の地震対策が少しずつ動き出します。



耐震補強

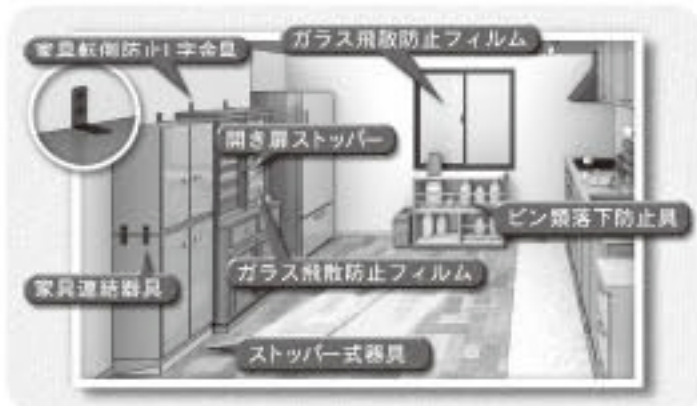
- 自宅が使える、自宅での生活を続けながら復旧を待つ
- 建物の損傷が大きいほど、生活の再建に時間がかかる

建物損傷程度と生活再建までの経緯			
地震後年数	半程度	1～2年程度	それ以上
◎ 無傷	自宅生活継続		
○ 一部損壊	自宅生活 修理	自宅生活	
△ 半壊	避難所生活等 修理	自宅復帰	
× 全壊または 焼失	避難所生活等	仮設住宅生活	災害復興住宅 自力再建



家具の固定

- 家族の無事、無傷が大前提
- 死傷の程度が大きいほど、生活の再建が困難



火を出さない

- 通電火災を防ぐ
- ブレーカーを落とす
- 自宅が燃えてしまったら、再建は非常に困難



備蓄品

- 水や食料などの備蓄品はなるべく多く備えておく
- 自治体の支援がすぐには受けられないこともある



撮影協力: 日野市 / NPO法人 日野映像支援隊

震災資料協力: 一般財団法人 みやぎ産業交流センター / 一般社団法人 日本損害保険協会 / 神戸市

2013年作品

● お申し込み・お問い合わせ

有限会社 **博映商事** TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220
【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp